

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立こども病院では、2023年5月23日付けで倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

研究の拒否	患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために試料・情報が使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。
研究課題名	胎便性腸閉塞に対するガストログラフィン注腸療法の治療成績の検討
研究機関名	静岡県立こども病院
研究責任者	福本弘二
研究期間	2023年4月～2024年3月
対象者	2011年1月以降2023年3月までにNICUに入院してガストログラフィン注腸療法を行った患者様
当該研究の意義・目的	<p>胎便性腸閉塞は、低出生体重児において腸管機能が未熟なために胎便を輩出するだけの有効な腸の動きを得ることが出来ず、閉塞性の腸管通過障害を来す疾患です。腸閉塞が進行すると経腸栄養を開始することができないだけでなく、腸管穿孔のリスクもあります。</p> <p>胎便性腸閉塞に対する治療としては透視下のガストログラフィン注腸が第一選択となり、これにより胎便を溶解し排出を促します。しかしながら、胎便による閉塞部位が広範囲にわたる症例、腸管内圧を上げることで腸管穿孔のリスクが高いと考えられる症例では一回の注腸療法では閉塞部位の開通を得ることは困難です。こういった症例では複数回の注腸療法が必要になったり、開腹手術での胎便除去や人工肛門が必要になります。</p> <p>注腸療法の成功割合や複数回の注腸や外科手術を必要とするリスクの高い症例の詳細は十分に解明されたとはいえない状況であり、本研究では当院でガストログラフィン注腸療法を行った胎便性腸閉塞の新生児を対象に、施行回数、成功割合、合併症などの治療成績を明らかにすることを目的としています。</p>

<p>方法および研究で利用する試料・情報について</p>	<p>対象となる患者さんの診療録（カルテ）から次の情報を調査します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背景因子（性別、合併した疾患など）、 ・臨床データ（検査結果など） ・転帰（症状の有無など）
<p>個人情報の開示に係る手続き</p>	<p>個人情報の開示に係る手続きは、下記の間合せ先にご相談ください。</p>
<p>資料の閲覧について</p>	<p>あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。</p>
<p>間合せ先</p>	<p>◆その他、この研究に関するお問合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。 静岡県立こども病院　小児外科　三宅　啓 代表 054-247-6251</p>